

平成 22 年度第 1 回講演会「iPad が図書館を変える？ ～これからの出版, 教育, 大学図書館～」  
アンケート結果

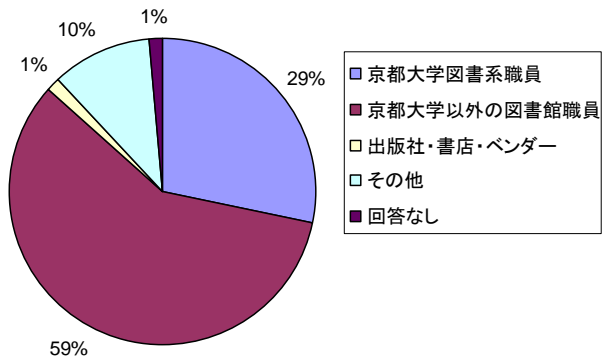
講演会実施日:2010 年 10 月 19 日(火)

参加者数:112 名 (学内:47 名, 学外:65 名)

アンケート回答数:67 名 (回答率:60%)

■ あなたのご所属先をお選び下さい

京都大学図書系職員	19 名
京都大学以外の図書館職員	39 名
出版社・書店・ベンダー	1 名
その他	7 名
回答なし	1 名



■ 本日の講演会について、どこでお知りになりましたか(複数回答可)

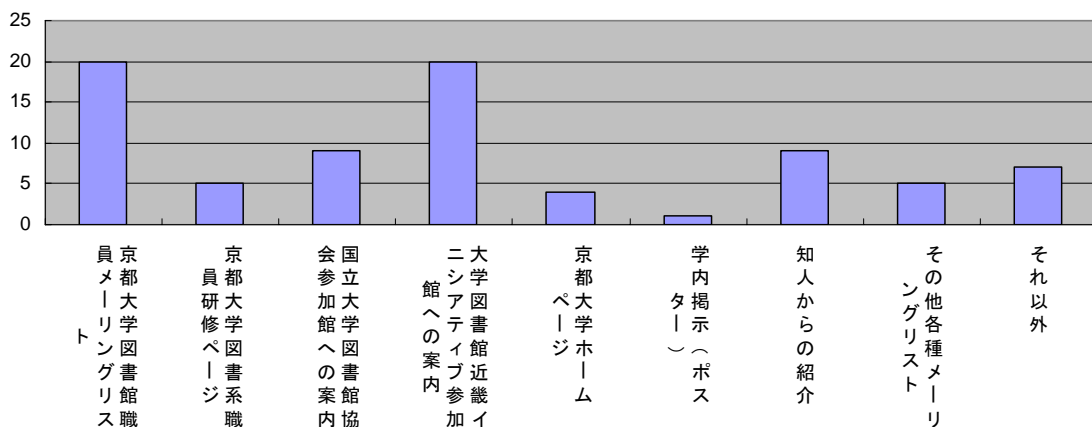
京都大学図書館職員メーリングリスト	20 名
京都大学図書系職員研修ページ	5 名
国立大学図書館協会参加館への案内	9 名
大学図書館近畿イニシアティブ参加館への案内	20 名
京都大学ホームページ	4 名
学内掲示(ポスター)	1 名
知人からの紹介	9 名
その他各種メーリングリスト	5 名
それ以外	7 名

「メーリングリスト」内訳:

ku-librarians	1 名
Lifo	2 名
大学図書館問題研究会	1 名
回答なし	1 名

「それ以外」内訳:

Twitter	3 名
google 新着情報(大学図書館で登録)	1 名
京大生協職員より	1 名
附属図書館総務係からの回覧	1 名
上司からの紹介	1 名



■ 本日の講演内容へのご意見・ご感想(主なご意見)

- 講演 1:「変貌する電子出版:1985 年～2010 年を総括する」(湯浅 俊彦 氏)
  - ◇ まとまっていて聞きやすかったです。国立国会図書館の動向が興味深かったです。
  - ◇ 盛りだくさんの内容をお聞かせ頂き、勉強になりました。
  - ◇ 全体的な流れがわかったのは良かったが、1 つ 1 つをもう少しゆっくりみたくもあった。
  - ◇ 電子出版の歴史や今後の動きなど、今までわかりにくかったことが、よくわかる内容で非常に参考になりました。
  
- 講演 2:「新時代のモバイル端末による大学教育支援について」(中村 聡史 氏)
  - ◇ iPad, iPod Touch が実際どのように使われているのか画面で見せていただき、よく分かりました。
  - ◇ Rerank などご研究内容も紹介してくださりましたが、どれも大変興味深く、是非使ってみたいと思いました。講義視聴支援システムもとても便利そうで、今後どのように広まり、また図書館とどう連携できるか気になります。
  - ◇ 新たな世代に対応した、教育環境を構築されている取り組みを紹介いただき勉強になりました。
  - ◇ 様々な検索の研究に驚きました。これらが蔵書検索に応用できるようになってほしいと思いました。
  
- 講演 3:「大学図書館からの発信:教育用電子書籍利用実験の紹介」(入江 伸 氏)
  - ◇ 改めて、日本の図書館・出版の「ガラパゴス」性、それを打破しようとする慶応大図書館の意気込みを感じた。
  - ◇ 紙・電子の間にある図書館の現状を知ることができた
  - ◇ 実験の状況を今後も紹介していただきたい
  - ◇ 実証実験について興味深かったが、これから 1 大学の取組でなく、日本の大学図書館全体の取組となっていくにはどうすればよいのか知りたかった。
  - ◇ 図書館のこれからの役割について考えさせられました。実際に iPad などを見せていただいて参考になりました。

■ 本日の各講演の内容で最も印象に残った一言

- 講演 1:「変貌する電子出版:1985 年～2010 年を総括する」(湯浅 俊彦 氏)

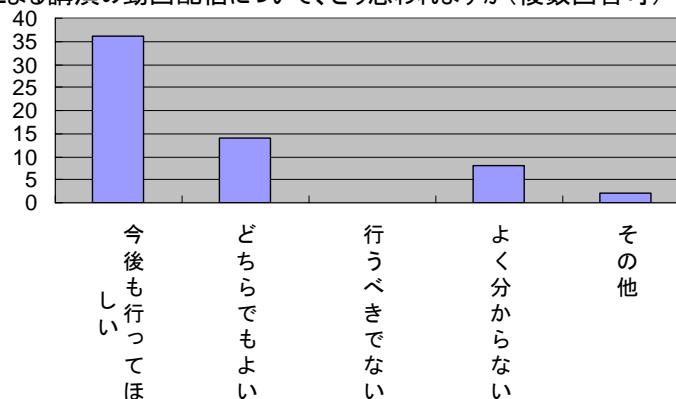
「レンタル vs. 購入」「『図書館』から変貌を迫られる図書館」「電子出版から巨大な出版コンテンツ・データサービス(化)へ」「70%以上の書籍がデジタル化される(米国)」「アメリカでの著作権問題(グーグル「ブック検索」訴訟和解案)が日本にも影響がある」「アメリカにおいて、10 年後、書籍は 100%電子化するだろう(OCLC シンポジウム)」「コンテンツプロバイダーとしての図書館」「コンテンツプロバイダーとしての図書館」「ずっと電子書籍元年」「ようやく日本の出版業界において電子出版が本格的に取り組みれつつある」「印刷会社主導の e-book 流通」「公共図書館の新しいビジネスモデル」「国会図書館の電子納本制度」「紙媒体の資料のデジタル化と電子出版物の流通によって、図書館資料の定義が大きく変わるだろう」「出版コンテンツのデジタル化が不可避」「出版会のビジネス

モデルの変化、プレイヤーの変化」「出版界では、何回も電子書籍元年と言われたが成功していない」「長尾館長 ミハルコ」「長尾真氏『公共図書館の新しいビジネスモデル』の”ビジネスモデル”の語」「電子のコンテンツが少ない」「電子出版から出版コンテンツ・データベースへ」「電子書籍の印税は、紙の書籍より高いこと」「電子納本」

- 講演 2:「新時代のモバイル端末による大学教育支援について」(中村 聡史 氏)  
 「(こうした講義視聴支援システムは)図書館の情報検索の授業(講座?)でも使えるのでは?」「あいまい検索を可能にする」「ゆるめでサーチ」「巻物」「100%デジタル化」「86 世代はケータイ中心」「iTunes U で講義を提供することで、新規学生を獲得する」「Rerank.jp」「TA の学生さんがインストールに尽力してくれているので・・・」「クエリに表れない人の思いを検索に反映させる」「ケータイで卒論を書くという世代も登場している」「意図に基づく検索」「京都の学生は自転車」「呼んでもらったら、いつでも来ますよ」「再ランキング」「人はそれほど意図を明確化できない」「人はもっとあいまいな検索をする」「人は記憶も意図も曖昧」「人間はあいまいなもの」「図書館サービスとどのように関連させられるか」「図書館とコラボ。研究所・研究者へオーダーを出す」「図書館検索においても iPad が活用できる」「大学発のサービスであることの重要性」「電子教科書などのクラウドによる管理の可能性」「配布資料が親切で講義を視聴する必要がなかった」
- 講演 3:「大学図書館からの発信:教育用電子書籍利用実験の紹介」(入江 伸 氏)  
 「『全文検索できてその場で読める世界』と『さあ紙から探しにいこうという世界』どちらが良いか」「図書館が無視してきたデータが重要になってくる」「図書館やめちゃえば!?!」「資料にあわせて、マネジメントコストも紙→電子へ移行させないといけない」「学生向けの日本語学習用資料の電子化が大事」「10 年後にはすべて電子化される」「2000 冊でもやってみること」「EJ の交渉で、止める権利のない図書館に交渉力がない」「MARC21 あつかえる技術者が日本にいない」「Net Library は評判が悪い?」「いつも online じゃないといけないというのは学生にとってしんどい(オフラインが重要)」「これだけ本のある図書館を久しぶりに見ました」「これまでの図書館スキルが通じるの?」「何かの可能性」「久しぶりに本のある図書館に来ました」「日本は遅れている」「共同して、学生のために商品を開発するというコラボレーションを行う」「紙の習慣や文化を変えられるか(日本の図書館学教育も「紙の世界」を前提としてやってきた)」「少し古い学術書にもロングテールがありそのデジタル化に取り組む必要がある」「職員による日本語化と周辺システムの開発でシステムに関する理解が進んだ」「図書館での購読モデル、利用モデルが確立できていない」「図書館と出版者等とのコラボレーション」「図書館の役割。今後すべきこと、電子学術書実証実験」「図書館はいらねえ」「図書館員にとって必要なスキルが変わっていく」「図書館捨てちゃえば」「数でなくユニークさ」「大学図書館は電子書籍化の実験の場」「電子と紙は一緒に管理できない」「電子雑誌の利用モデルを大学図書館が作る必要がある」「日本の電子書籍は遅れている」「日本の電子書籍化はものすごく遅れている」「図書館捨てちゃえば?」「日本以外の国(米・中・韓)のデジタル化は進み、日本は遅れている」「日本語電子資料数の少なさ」

■ 本日の講演会で行った Ustream による講演の動画配信について、どう思われますか(複数回答可)

今後も行ってほしい	36 名
どちらでもよい	14 名
行うべきでない	0 名
よく分からない	8 名
その他	2 名



- 「今後も行ってほしい」理由(主なご意見)
  - ◇ 講演会会場に来られない方のために大変良いことと思います。
  - ◇ 今回は参加出来たが、出来ない場合にも是非学びたいため。
- 「よく分からない」理由(主なご意見)
  - ◇ 実際に配信を視聴してみなければ判断できないため
  - ◇ 動画配信は、多くに見てもらえるので良いが、編集問題、見る側の環境も考慮が必要
- 「どちらでもよい」理由(主なご意見)
  - ◇ やはりリアルでの聴講が一番だと考えているから。でも、どうしても参加できないなら動画でもアリと思うので。
  - ◇ 今日は来ることができたが、来れないときは配信があると安心する。アーカイブがあればもっと良いと思う。勤務中には見れないので。
- 「その他」の理由(主なご意見)
  - ◇ 参加できないときにはありがたい

■ その他、本日の講演会全般についてご意見等があればご記入下さい(主なご意見)

- ◇ 3つの視点それぞれが興味深かった。長時間だったので少し疲れた。
- ◇ テーマが大変興味深く、講師のお話も多角的で、来て良かったと思います。
- ◇ 電子化における取り組みがどのように行われているのかがあまり分からなかったので、図書館として何をすべきかという具体的な考えが思いつかなかったのですが、今回の講演でそれらが鮮明になりました。

■ 今後、講演会で採り上げてほしいテーマなどがあればご記入下さい

- ◇ MLA 連携
- ◇ あるべき京大図書館機構、すがた
- ◇ インストラクショナルデザイン環境。目録データの世界標準(MARC21)と CATP のちがいがい
- ◇ 今回のテーマもこれからどうなるか続けていただきたいです。
- ◇ 図書館サバイバー、図書館員サバイバー???

- ◇ 図書館システムについて
- ◇ 図書検索端末としてのモバイルデバイスの活用
- ◇ 接遇、危機管理、古本屋業界の話とか・・・
- ◇ 大学図書館での具体例(実際に行っている大学例など)問題点、良い点の報告
- ◇ 大学図書館での電子書籍/E-Book の予算執行や提供の仕方等
- ◇ 大学図書館のイメージ戦略や広報活動について
- ◇ 同じテーマで来年もお願いします。